

第2回 烏山地域 - 1

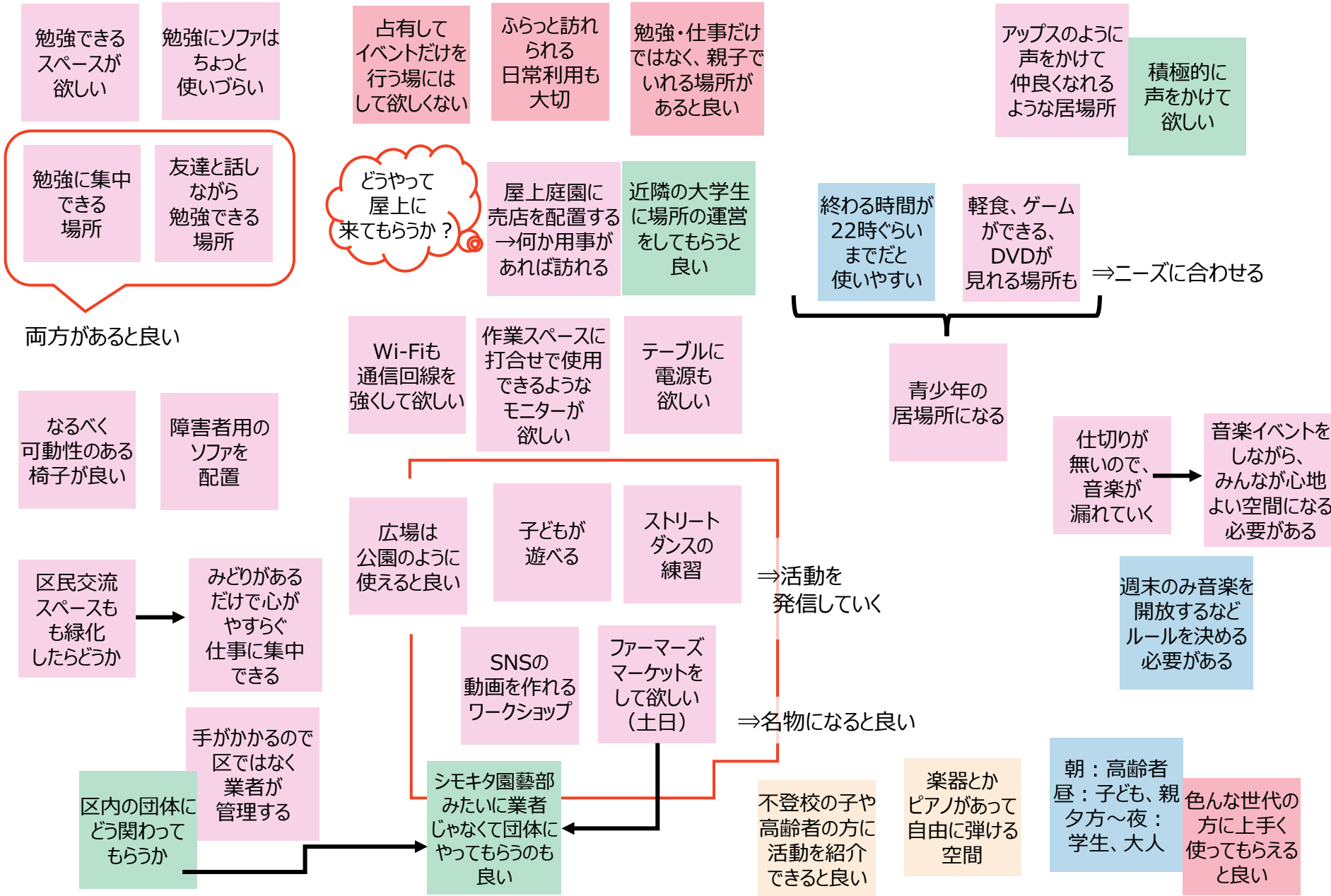
施設全体方針、その他

備品、レイアウト、空間の使い方や過ごし方

利用ルール

支援体制、区民参加、つなぎ役

活動内容



第2回 烏山地域-2

施設全体方針、その他

備品、レイアウト、空間の使い方や過ごし方

利用ルール

支援体制、区民参加、つなぎ役

活動内容

区民がつなぎ役になるには？

行政が入って予算が無いと難しい

世田谷区の団体はボランティア色が強い事業化が弱い

団体が持続的に活動するためにはお金が必要

事業化することで色々な人が関われる

みんな来てね、ではなく事業として仕掛けづくりが必要

色々なタイプの人を集めて適正な報酬を払う必要がある

事業を動かすなら常勤が良い1人ではカバーしきれない

貸会議室とオープンスペースの使い方は少し違う

オープンスペースはあまり煩雑にしない方がいい

良い意味でカオスな状況→面白いことが起こる

完全なものになってからスタートしなくても、やりながら変えていけると良い

災害時の頼れる拠点になって欲しい

使いやすい設備があって欲しい(有料でも良いから)

ルールによってその場のカラーが変わってくる

長時間いる人にどう言うか？バランスが難しい

普通の区民(違う畑の人)と繋がるには自由な使い方が良い

自由な感じでみんなで呼びかけて譲り合って使えると良いのでは

Wi-Fi → 会議をするための設備が欲しい！

オンラインとのハイブリット形式を求められる...

主催側が両方やるのは大変...

サポートして欲しい

区としての課題

区民が参加しやすいシステムが足りない

ただ...

色々なものを取り入れながら話し合っ、自分たちの暮らしを良くしていこうという土台はあるはず

NPOだけが施設を利用する訳ではない

区内の活動団体をどのように把握するか

簡易な畳を臨時で敷いたりとか

屋上は木陰、日陰、ベンチが必要夏は暑いけど...

例：松沢まちセン
藤棚がある日陰になってとても良い

誰でも気軽にハイブリット形式のセミナーとかができる

オンラインイベントをしたいからこの施設を使おう！となるのでは

不慣れな人にアドバイス欲しい(コンシェルジュ)

遠い地域の人からすると区役所は遠出する感じ

ワクワクする非日常感があると行きたくなる

一方でリアルに集まることも大事

ボランティアとかでも良い → 何人かでシフト制にするとか

子育て世代は集まる場所が欲しい

安全に子ども達と一緒に集まれるスペースだと良い

ソファーやお座敷があると寝かせたりできる

午前中10~12時がニーズあり 午後はお昼寝

例：サイボウズ本社
室内に植物があったり非日常感がある

例：世田谷キューズガーデン(給田)
毎日行く所ではなく羽を伸ばしに行く所
たまに使うとテンションが上がるインテリアとか
WSとかをやりたくなるような空間(座敷とか)